

令和6年度 市政懇談会 開催議事録

開催日時：令和6年5月21日（火）午後6時30分～午後8時00分

開催場所：笠間公民館 2階 大会議室

出席者：6名

《意見交換》

- 1 生活道路の整備について
- 2 新清掃施設整備計画について
- 3 大豆の生産について
- 4 救急車の出動回数増加について
- 5 電気自動車の活用について
- 6 台湾関連の取り組みについて
- 7 デマンドタクシーについて
- 8 安全性能が高い自動車の購入補助について
- 9 ふるさと納税の流出入金額について
- 10 ふるさと納税の使い道について
- 11 ハザードマップにおける市街地浸水地域について
- 12 企業誘致について

1 生活道路の整備について

【意見等】

区長として対応している区内のうち、2戸に通じる道路のみ舗装されていない。前区長が市に整備を依頼したが、3月にできないとの回答をもらった。限られた予算の中でも、公平性の観点や地区の中での位置付けを踏まえて生活道路の整備を検討してほしい。

【回答】

市には、各区長から道路・歩道・交差点に関する要望が年間約100件、それ以外を含めると約300件の要望がある。道路に関しては、交通量や通学路かなど、検討項目ごとに点数化し、優先順位を付けて整理している。笠間は面積が大きく、市道総延長距離は約1,500km、うち約500kmが砂利道であり、個人の家に続く道路の整備は優先順位が低いというのが現状。現実的にすべての舗装は難しいため、ご理解いただきたい。

2 新清掃施設整備計画について

【意見等】

新清掃施設整備計画で配布された資料では、1日当たりのゴミ処理量が80t、年間19,610tとされており、245日で計算されているが、資料には但し書きもなく説明が不足していると感じる。担当課に修正をお願いしたが、新しい資料も直っていない。他にも複数の指摘をしたが、すべて直っていない。重点的に進める整備計画であれば、わかりやすく、誤解のないように直してもらいたい。

【回答】

わかりやすく資料を作るのは当然のこと。お手元の資料は説明会の際のだいぶ前の資料と思うが、

住民向けに説明した当初の内容と数字や状況が変動することはある。ゴミ処理の市民説明会は、方向が定まれば再度開催する予定であり、そのときには、より明確な数字を示せると思う。

3 大豆の生産について

【意見等】

大豆は加工食品も含め、地域の伝統的な食材にかかせないもの。粟や米とあわせて、大豆にも市の支援をしてもらえないか。

【回答】

笠間市が力を入れている粟と米は、生産面積が大きいことから、農業従事者も多く、単価が上がれば全体の底上げを図ることができる。大豆、ホウレンソウ、キャベツなど、種目別の支援は実施していない状況だが、今後は、米も含めてオーガニックが主流になり、伸びていくと考えている。

4 救急車の出動回数増加について

【意見等】

救急車両の出動回数が増加していると感じる。間違った通報や救急要請もあると思うが、特定の事象があるのか、詳細を調べてもらいたい。

【回答】

増加の理由は把握していないが、出動回数が増えているのは事実。一般的には、救急出動の5割程度は、救急車を呼ぶ必要のない通報といわれている。市では安易に救急車を呼ばないように広報等でも呼びかけをしているが残念ながら効果がない状況。笠間市の救急出動回数は、コロナ前がピークで約3,400回、コロナ禍で約3,000回まで減少したが、令和4年中には約3,500~3,600回まで増加している。利用頻度は高まっているが、今後も適切な利用を呼びかけていく。

5 電気自動車の活用について

【意見等】

笠間支所に電気自動車の公用車が2種類あるが、小さい方（コムス）の使い道として、青色パトロール車に活用できないか。

また、電気バスの導入に関する取り組み状況は。

【回答】

市ではコムスを3台購入したが、利用頻度が低いため、使い道について、パトロールカーも含めて、考えていきたい。

自治体が運行するバスは、ほとんどがEVバスに代わっており、20年経つ笠間観光周遊バス（通称赤バス）を買い替える際は、EVバスの導入を前提としている。しかしながら、運行の内容について継続的に議論しており、友部地区の市街や岩間地区も運行ルートに含めるかなどの意見を整理しているが、買い替える際にはEVバスとする予定である。

6 台湾関連の取り組みについて

【意見等】

台湾との連携に力を入れているが、取り組み内容について詳しく聞きたい。

【回答】

昨年、笠間台湾交流事務所を設置して5年が経ち、記念式典を台湾現地で行った。5年間のうち、3年半はコロナで活動が制限されていた。開設当初は、インバウンドを主に取り組んでいたが、5年目以降は人的交流・産業交流に力を入れている。台北市、銘傳大学、台北城市科技大学と連携協定を締結し、大学生を市で受け入れて人材を育成し、就職を促すほか、子どもたちのスナッグゴルフによる交流に取り組んでいる。産業的には、栗ペースト・米などの輸出に取り組んでいきたいが、オーガニックに関しては台湾の方が進んでおり、台湾で受け入れてもらえるようなオーガニック栽培強化と生産履歴をきちんとしていかなければならない。市からも職員を研修に出し、オーガニックに対応できる農家を増やしていきたいと考えている。長い目で見たとときに、人的交流が次に繋がっていくと考える。

7 デマンドタクシーについて

【意見等】

高齢者の免許返納後の移動が課題であるが、デマンドタクシーによる病院の周回などを検討してもらえないか。

【回答】

市でもコロナ前までは、免許返納を積極的にお願ひしていたが、車の安全性能が高まったことから、単純な年齢で切り分けることは難しく、個人の体調で免許返納を判断してもらっている。笠間地区・岩間地区の方が最も行くのは県立中央病院をはじめとした病院であり、現状はデマンドタクシーで対応している。将来的に高齢化が進んだ場合には、デマンドタクシーの台数を増やすのか、イオン・県立中央病院等を結ぶ路線バスを走らせるのか、議論が難しい。JR岩間駅から県立中央病院へのバスを運行してほしいとの意見があったことから、実証実験を行ったが、乗車したのは1便あたり1名のみだった。需要を調査しながら取り組む必要があり、不便であることも理解しているので、高齢者が増加することを踏まえ、しっかり状況をみて判断していきたい。

8 安全性能が高い自動車の購入補助について

【意見等】

高齢者が安全性の高い自動車に買い替えた場合、市から補助金を出すことはできないか。

【回答】

過去に検討したことがある。誘導策として補助金という考え方はあるが、今後の課題としたい。

9 ふるさと納税の流出入金額について

【意見等】

ふるさと納税の流出入金額の内訳は。

【回答】

笠間へのふるさと納税は、令和5年度が約1億7,500万円、令和4年度が約1億6,000万円。どこの自治体も手元に入ってくるのは5割で残りは返礼品提供事業者へ約3割、配送や寄附受付代行を行う中間業者等に約2割流れているのが現状。笠間市から他市町村へのふるさと納税額は、令和4年度においては、寄附額受入額とほぼ同額の状況であった。

10 ふるさと納税の使い道について

【意見等】

ふるさと納税の使い道を市から具体的に提示してもらうことはできないか。

【回答】

市でも、ふるさと納税の使い道は、個別の政策ごとではないが、寄附者が「まちづくり・子ども支援・芸術文化・いずれでも」を選べるようになっている。寄附実績からそれぞれの項目に合わせ、基本的には翌年度の事業予算に充当する形になる。具体的な事業については、実績報告としてホームページへ公開している。引き続き市独自の取り組みを実施するなど、ふるさと納税の金額を増やすための取り組みを強化していく。

11 ハザードマップにおける市街地浸水地域について

【意見等】

笠間市のハザードマップにおける市街地浸水地域に対する市長の考えは。市街地を守る工夫を示してほしい。

【回答】

法改正に伴い浸水想定区域を指定する河川が増えたことにより、今年度、ハザードマップも見直す予定。今まで浸水エリアではなかった地域が浸水エリアに含まれる可能性がある。大雨洪水時の避難所の見直し、避難対象条件など、住民に周知する取り組みを進めていく。これまでも田んぼダム・河川の改修、排水の見直しを行っており、命を優先した取り組みを行っていく。

12 企業誘致について

【意見等】

笠間の人口を増やすためには働き場所を増やす必要がある。笠間市は地震に強い地盤があり、企業の積極的な誘致を行う考えはあるか。

【回答】

企業誘致には広い土地が必要であり、造成するためにはお金がかかる。工業団地に空きがあっても、中小企業にとっては価格が高いなど、企業の要望など誘致にもさまざまな条件がある。工業団地に入る企業は、製造業や物流企業が多く、人手が必要であり、担い手となる市内の高校生の進学・就職率等の情報は企業側に提供している。

企業誘致は税金・地域の経済を動かす力など、いろいろな効果があることから工業団地への企業誘致は順調に進めており、それ以外の地域での誘致については、安居工業地域のような私有地を活用した取り組みを積極的に行っている状況である。